

金沢城公園 鶴の丸休憩館



既存の鶴の丸休憩所は平成13年開園時に仮設的な休憩所として整備された施設であり、老朽化が進んだことから、建て替えが求められていた。

平成20年には金沢城公園が国史跡に指定され、橋爪門や玉泉院丸庭園の復元整備が進められてきた中で、平成27年には北陸新幹線の開通もあり今後、来園者の増加が見込まれる。

今回の計画において老朽化した施設のリニューアルだけでなく、さらなる利用者の増加を目指し金沢城公園のインフォメーション広場として整備を行った。



展示スペース(展示設備:別途工事)



飲食コーナー(床仕上・家具造作別途工)

外観計画 金沢城公園内において主役は復元建物であり、休憩施設は土塀から見えない高さとし原風景に入り込まないよう配慮した。シンプルな切妻屋根と外部を構成する素材が感じられる仕上は、現代的でありながら、周囲景観と調和するデザインとして計画した。



休憩スペースの計画 復元建物である五十間長屋、橋爪門続櫓、菱櫓を一望できるよう、大判ガラスで構成、構造柱をできる限り眺望の支障とならないよう細い鉄骨柱としている。
一部、飲食ができるコーナーを設けゆったりとくつろぎながら眺望を楽しむ空間を演出した。

展示スペースの計画 オープンな休憩スペースと対照的に閉じた構成とし展示に集中できる空間を創った。展示内容が映像主体となることや現物展示もあることから、外部の光を遮るよう窓を設けない計画とした。入口から休憩コーナーへ通り抜けられる動線計画とし、より多くの人々が立ち寄れるようにしている。



:多目的トイレ(1箇所、音声誘導、オストメイト対応)出入口は引き戸とし車いす利用者の通行に支障がないようにした。
その他男女各1か所多目的ブースを設置、子供連れ、おむつ替え、着替えなどができる設備を整備した。



:県産材の採用

下地材、内装天井材は杉材
構造材、内装床・壁材は能登ヒバ等
構造材から仕上材まで県産材の採用に努めた。

DATA

⑤公園休憩施設
金沢市丸の内地内
平成28年8月～平成29年3月
鉄骨造一部木造:地上1F
延べ面積:422.20㎡